

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2971500224		
法人名	一般財団法人 信貴山病院		
事業所名	グループホームはあとの杜しぎさん		
所在地	奈良県生駒郡三郷町勢野北4-3-2		
自己評価作成日	令和4年11月1日	評価結果市町村受理日	令和5年1月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/29/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人カリア
所在地	大阪府泉佐野市泉ヶ丘四丁目4番33号
訪問調査日	令和4年12月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ハートランドホスピタルグループの医療と介護の連携、及び様々なサービスを迅速かつ適切に提供できる環境の整った施設です。又、ご家族様・入居者様にも「職員も家族」と思ってもらえるように、ご家族様とは連絡を密に取り合い信頼関係を築くことにも力を注いでいます。職員は常に利用者様と向き合い、ご利用者様の立場に立ち、その場、その時に応じた最良の介護サービスを提供できるように日々努力しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは閑静な住宅街の一番上の高台にあります。敷地内には桜の木や紅葉があり風景や景色を楽しむことができます。ホームの経営母体が医療機関であり、多角的に運営されている事もあり、精神科受診、内科・訪問看護の訪問があり医療のフォロー体制が充実しています。また、デイケアを利用する事で、ホームに閉じこもることなく、入居前の馴染みの方との交流が出来たり、その方の生活能力を維持できる環境にあります。スタッフは接遇研修や身体拘束研修などに参加する機会や個人面談を通して人材育成が出来るシステムがあり、法人理念に添ったケアの実践に努めています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人・事業所の理念を掲示し、職員も業務の際は携帯しています。毎月のグループホーム会議で管理者と職員は共有し、実践している。	法人全体とホーム独自の理念を掲げています。理念を玄関・職員室に掲示。また、名札入れに携帯し業務中に確認が出来ます。また、月1回のミーティングで唱和し、日頃から意識付けをしながら取り組んでおられます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染防止の為、毎年恒例の地域の夏祭りの参加ができていないが、地域の自治会長とは連絡を取り、交流を行っている。	自治会に加入しています。コロナ禍で自治会主催の夏祭り等が中止となっていますが、自治会長へご挨拶に行くなどの対応をしながら関係性を保っています。また、ホームに植えてある木から落ちる花びらや落ち葉の清掃を自主的に行うなど良好な関係作りを意識されています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症カフェにオンラインで参加し、地域住民の方に認知症についての相談に答えたり、話し合っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議自体は新型コロナウイルス感染拡大防止の為中止していますが、認知症カフェにオンラインで参加し、地域住民の方や行政と話し合う機会を設けています。	ご家族、自治会長、地域包括、デイケアスタッフ、薬剤師などの関係者により会議を進めています。現在、コロナ禍の中、会議自体は中止となっていますが、2か月に1回、活動報告を配布しておられます。また、外部からの意見等を記入出来る様式となっており、サービス向上に反映する仕組みがあります。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2か月に1回グループホームの活動報告を行い、事業所の実情やサービスを伝えていく。町主催の会議等に出席し、相談しやすい連携体制を築いている。	活動報告を行政担当課へ提出、または、感染症対策の相談等日頃から関わりを持ちながら関係性の継続に努めておられます。また、認知症カフェに参加され地域の方の入居相談・介護相談等をの対応をしておられます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は常時開放で施錠なし、夜間のみ施錠している。常時出て行かれる入居者様に対しては、目が行き届かない時のみ記録の上でフロアの施錠を検討する。事業所内で身体拘束廃止委員会を3か月に1回実施している。	年間研修計画で2回の研修を実施。また3か月に1回身体拘束廃止委員会が開催され、職員への意識付けがなされており、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでおられます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は虐待防止の外部研修を受け、事業所内研修を年に2回行い、普段の何気ないケアの中で見過ごされる事のないように、抑制のないケアを実践している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	海外在住の家族様の要望から、日常の金銭・書面管理について日常生活自立支援事業を利用する。社会福祉協議会担当者と協力し、援助している。それに携わることで学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・相談に関しては、管理者とリーダー同席で対応し、時間をかけて家族様が理解・納得されるまで説明をしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様が介護計画書の受取・物品補充に來られた時、要望を聞き取る機会を設けている。又、年に1回家族様へアンケートを実施し、意見を抽出、運営に反映している。	玄関に意見箱を設置。また、年に1回アンケートを実施し、意見を集約する工夫がされています。また、日頃からご家族との関わりを積極的に持つことで意見を出しやすい関係性の構築に努めています。意見要望についてはミーティングで話し合われています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は法人会議・入所施設会議に出席し、月一回のグループホーム会議時においてお互い話し合う機会をもつ	月1回のミーティング時に入居者の個々の対応や業務について話し合いが持たれています。その他、個別面談を行い職員の希望、要望を引き出しながら取り組んでおられます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回面談する機会を設け、職員個々の評価を行い、個々が働きやすい環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修・外部研修の年間計画を作成し、各職員が研修に参加できるシステムや、個人での資格取得への学びができる環境を整えている。又、キャリア段位制度を導入し、継続的人材育成を展開している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修を通して、同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りを行い、その後、研修で勉強した内容を事業所でフィードバックを行い、サービスの質、職員の質の向上に取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期の不安を解消し安心して過ごして頂くために、関係事業者・家族様から細やかな情報提供を頂きアセスメントに生かし環境整備に努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前から家族様の想いを聴き取り、入居後も報告・連絡・相談支援に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族様の要望とニーズの違いに気付きつつケアプランを共に検討する		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者様に家事活動を行っていただき、役割を持っていただくことで、自分の家だと思っただけのようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様の想いを聴き取りながら、入居後の新たな関係作りに努めています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個別支援で入居前より利用していた、馴染みの理髪店を利用いただいている。	デイケアに出かけた際に入居前の顔馴染みの方との交流や、馴染みの理髪店での散髪への支援など関係性の継続に努められています。現在、コロナ禍で面会は中止していますが、以前は、知人の面会等も受け入れておられました。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いが馴染みの関係を保ち、お互い不快感を残さないように、配慮した支援に努める		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の家族相談に関しては、近況をお聞きすると共に、一緒に話せる機会を持つ		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で、本人の希望等を聴き取り実現できるように配慮する。また、介護計画にも反映している。	入居前の情報を基に日常会話の中から意向を聞く、また、ご家族から趣味や好きな物などを聞き取りながら、内容によってはご家族にも協力をしてしてもらい意向を把握し実践に繋げています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族様から生活歴を提供して頂き、本人からも会話の中からさりげなく聴き取る		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態観察を行い、記録する中で変化のある入居者様は、必ず申し送りを通じて職員全員が現状を把握する		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月一回、担当者・他のスタッフも交えたケアカンファレンスを行い介護計画に反映させている	介護計画は基本的に6カ月に1回更新していますが、月に1回、個々の入居者について話し合いが行われ、ケアや意向内容の変更があれば随時更新しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌・記録表・介護記録表2に記入し、情報を共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族様の要望(外出・面会・受診の付き添い)や、本人の一日の過ごし方は、出来るだけ本人の意向を尊重し柔軟に対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	法人のDC参加等、必要に応じた支援を柔軟に取り入れる		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医、近医、当法人の病院、訪問看護師等が連携し適切で迅速な医療対応を支援する	元々のかかりつけ医への受診も可能です。協力内科医の月2回の往診があり、状況に応じて他医療機関への受診、入院等の照会や、訪問看護の週1回の訪問と夜間緊急時の訪問があります。経営母体病院の精神科の診察もあり、入居者の必要とする医療連携がなされています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週水曜日に訪問看護師が健康確認に来所、職員への相談指導や入居者様の普段の状態を把握し、緊急時の迅速な対応に繋げている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に至る心身の変化状況を記録した介護記録表2、薬情、フェースシート等を即時提供する。また早期退院できるよう病院との情報交換や相談支援に努める。入院時には関係者と名刺交換を行い、関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日頃から家族様・本人から重度化において、どのような支援を望まれるか主治医を交えて相談支援に取り組んでいる	入居前にホームの対応を説明。また、暮らしの中で状況に合わせてご家族、ドクターを交えての話し合いを持たれています。重度化に伴いドクターからケアの具体的なアドバイスや、状況に相応しい施設、医療機関の紹介など個々の入居者の状態に合わせて柔軟に対応をされています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	主治医・法人施設長・管理者・訪問看護師・家族様に迅速に報告し、対応出来るよう緊急時マニュアルを作成し新人職員には指導する		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	現在新型コロナウイルス感染防止の為、年二回、書面を元に消防訓練を実施し消防署へ報告する。その後消防署からの指導・アドバイスを生かすためOJTを行っている	年に2回消防訓練を実施されています。実施計画書を消防署へ提出しアドバイスをもらいながら災害時の対応を検討されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	必要時、院内の接遇研修(基礎編・応用編)を受け、人として大切に関わることを基本に、家族了解の上でその方に応じた言葉かけを行っている	法人の接遇研修に参加。また、ホーム独自の接遇チェック表を活用し、日々の入居者への関わり方について、尊厳やプライバシーに配慮した対応がされています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	過度の声かけ・促しをせず本人がどうしたいのか聴き取る努力を重ね、ご自身が選ぶことができる環境作りを行っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	当日の体調・気分・要望等を聴き取り、生活リズムを乱さないように支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	二か月に一度の訪問美容では、その人の希望するメニューで利用して頂き、衣類に関しては衛生面も考慮し、ご自身で選択していただく支援をしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の好き嫌いを日々の関りで把握している。行事の際は「何が食べたいのか」聴き取りをし、提供している	食事は外注となっておりますが、ご飯と汁物はホームで作っています。献立で苦手な物があれば代替の品を提供する、以前からパン食であった方にはパンを提供するなど柔軟に対応しています。また、おやつでケーキを作ったり楽しみとなる様に工夫をしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	記録表に、毎食事時の食事量(献立は献立表)・時間ごとの水分摂取量を記録し、一日のトータルで支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア(夜間の義歯消毒)支援と、週一回の訪問歯科受診を受けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人別の排泄チェック表を作成し、排泄パターンを見極め、無理強いせず声かけ誘導援助を行う	出来る限りトイレでの排せつを心掛けています。排せつチェック表や個々の仕草などにより排せつの傾向を分析しスタッフ間で共有しながら入居者個々の適切なタイミングで支援が出来る様に取り組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の乳製品摂取、食事前後のトイレ案内・水分補給・バランスの良い食事支援を行う。また医師から処方がある方には、その指示のもとに適宜便秘薬調整を行う		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回、その方に応じた個浴支援を行う。入浴拒否・長風呂・一番風呂の希望には、適宜配慮しつつ安全に入浴して頂く	ゆず湯や菖蒲湯など季節を楽しんで頂ける様に工夫されています。また個々の希望に合わせて、ゆっくりと入浴出来る様に入浴時間を確保するなど入居者のペースに合わせて支援をしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	季節に応じた居室の湿度・温度調整を行い、個々の就寝サイクル(不眠・浅眠・早期就寝等)を大切に、夜間は1時間に1回の巡回、また安眠を妨げない範囲でのトイレ案内も行う		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬の無いようダブルチェックを行い、薬変更・追加時は家族様に変更理由を伝え了承を得て服薬して頂き、体調に変化があれば早期に主治医に報告する		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	週5回の法人DCへの参加、ホームでは個別レク(法人DCを休む事あり)に取り組み、楽しみや張り合いのある日々が提供できるように支援する		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現状、新型コロナウイルス感染防止の為、家族様との外出は制限していますが、個別レクで花見の散策等を行っています	週5回デイケアに出かけたり、敷地内での花見などに出かけておられます。デイケアでは入居前の馴染みの方との交流もありホーム内で閉じこもることなく心身の気分転換が図られています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本、認知症重度化により紛失の恐れや盗難の可能性があるので、管理することが多く、希望により所持していただくかたもいらっしゃいますが、職員がそれも金額の把握と確認は実施している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様・知り合いの方からの電話・手紙等の取次ぎ制限は有りません、また暑中見舞い・年賀状作成の支援もしています		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	1日2回(日中・夜間)の清掃を行うことで衛生的に過ごして頂いています。また玄関・フロアーには、季節を感じられるように、入居者様・職員による共同作品を展示しています	リビングは外光が入り明るい空間となっています。また、畳のスペースがあり足を伸ばしてくつろげます。季節に合わせて雛飾りや七夕、クリスマスの飾りや創作活動で作った作品を掲示したりし居心地よく過ごせる様に工夫されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング・畳の間・ソファで各自が自由に過ごせるように配置を柔軟に変更しています。又、気の合った利用者様同士の部屋に、自由に行き来して頂いています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、使い慣れたタンス・机・布団等を持参していただき、なるべく環境を変えないように、家族様に声かけをさせて頂いています	ベッドは介護用ベッドが備え付けられています。趣味の道具や使い慣れたタンスなど持込みは自由です。壁に写真や創作品を貼り付けるなど、入居者個々の嗜好に合わせて空間が作られています。また、窓からは桜の木が見え春には楽しむことができます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの行動を観察し、その意味を理解した上で環境を整え、出来ることを本人から取り上げない支援をしている		